

標 題 出雲地域の稲WCS、更なる品質向上に向けて～その2；中干しの徹底を～

(ダイジェスト)

J Aしまね出雲WCS協議会による本年産稲WCSの品質向上に向けた取り組みの一つとして、6月12～13日に、管内3会場で現地講習会を開催しました。当日は、当普及部の農産担当が講師となり、今年度の重点指導項目とした“中干しの徹底”を中心に、今後の管理について意識統一を行いました。

J Aしまね出雲WCS協議会による本年産稲WCSの更なる品質向上にむけた取り組みについては、普及情報No. 8「出雲地域の稲WCS、更なる品質向上に向けて～その1；まずは利用者の声から～」にて情報提供したところです。

この度、6月12～13日に、平田地区、神西地区、佐田地区の3会場において、稲WCSの生産者（総勢19名）および関係機関を対象に、現地講習会を開催しました。圃場の様子を見ると、このところの好天により、WCS用稲の生育は早まっている状況でした。

講習会では、当普及部の農産担当が講師となり、今年度の重点指導項目とした“中干しの徹底”を中心に、今後の管理について意識統一を行いました。WCS用稲栽培における中干しの最大の目的は、収穫時の地耐力の向上です。収穫時、圃場に思うように入れないと、熟期が進み、粃が固くなるのが利用者にも問題視されており、農業技術センターの古瀬専門農業普及員からも、牛の消化性の観点から適期収穫の重要性をお話いただきました。

中でも、佐田地区での講習会では、平田地区で稲WCSを大規模に栽培しているO氏を講師に招き、作溝の効果について、作溝バイクの実演を交えてお話いただきました。O氏からは「作溝を行うことで、収穫・ラッピング・搬出の各作業効率が高まり、かつ機械の故障も減り、経費削減にもつながるので、欠くことの出来ない作業だ」との言葉がありました。参加者からは、作溝バイクを走らせる圃場条件についての質問や、女性でも操作できることへの驚きの声が聞かれました。今後、生産者の目線から作溝の効果を検証することとしています。

当普及部としましては、今後早生・晩生品種の調査圃場において生育調査等を実施するとともに、収穫時期には、水分率測定に合わせたスクイーズテストの普及を進め、引き続き良品質な稲WCSの生産に向けて関係機関一体となって支援することとしています。



平田地区での講習会の様子



佐田地区で説明するO氏



女性でも操作可能です！